

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評価し

ます。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評価し

ます。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評価し

ます。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（必修科目）です。保育者は障害のある子どもを、保育所や幼稚園および療育施設で保育しています。障害のある子どもへの保育はその子どもをかけがえのない存在としてとらえ、その子らしく成長していくために必要な指導・援助を行うという意味において、基本は障害のない子どもの保育と同じです。この授業では、障害のある子どもに心から出会い、保育するための構えを作ります。

科目の概要

障害のある子どもにとってふさわしい保育ができるようになるために、障害児保育の歴史や現状を知り、さまざまな障害と保育についての知識を持ち、障害のある子どもと共に生きている他の子ども達や家族とのつながりへの配慮や援助のあり方を学びます。

学修目標

- ・さまざまな障害についての基礎知識と特別な配慮や援助の方法を理解する
- ・障害のある子どもとそうでない子どもが共に育ち合うための保育の方法を理解する
- ・障害児保育は保育者として各自が必ず取り組む保育であることを認識する

内容

1	障害児保育の目的
2	障害児保育の歴史
3	障害のある子どもの保育・療育施設での生活と保育
4	保育者の基本姿勢と保育実践の展開
5	さまざまな障害と保育（1）知的障害
6	さまざまな障害と保育（2）視覚障害・聴覚障害
7	さまざまな障害と保育（3）運動障害
8	さまざまな障害と保育（4）自閉性障害
9	さまざまな障害と保育（5）LDとADHD
10	障害児保育の現状と課題（1）保育所・幼稚園
11	障害児保育の現状と課題（2）療育施設
12	障害のある子どもとそうでない子どもとの育ち合いへの援助
13	障害のある子どもの両親や兄弟への援助
14	障害のある子どもに対する学校教育
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）と最終週の試験（50点）、さらに通常の授業態度（10点）を加味して総合的に評

値します。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】近藤直子・白石正久・中村尚子編『新版テキスト障害児保育』全障研出版部

【推薦書】山田真『障害児保育－自立へ向かう一歩として－』創成社

毛利子来・山田真・野辺明子編著『障害を持つ子のいる暮らし』筑摩書房

科目名	多文化教育		
担当教員名	大和 洋子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、保育士・幼稚園教諭として現場に勤める予定の学生を想定した授業です。ディスカッションやミニ発表を含みますので、積極的な姿勢を期待しています。

- 1、日本における多文化の歴史とその変遷を理解します。

- 2、日本の多文化地域の教育実践例を取り上げながら、現状を把握することに努めます。特にアジア諸地域の保育・幼児教育を理解し、その地域から日本に移住した家族が体験するであろう問題点、及びそのような子どもを受け入れた施設側が直面するであろう困難点を予測し、解決策を探ります。

- 3、世界の多文化共生社会の教育現場での取り組みを学習します。

保育者として現場で多文化からくる困難に直面した際に、自分の文化的背景を当然の前提として解決策を探らず、適切な対処を考えられるようにします。

内容

本講座は聴講だけでなく、学生の積極的な発言や発表を期待しています。様々なビデオを鑑賞しますが、そのあとにディスカッションやグループワークも取り入れます。聴講生の人数により、単独ないしグループで教科書(或いは教科書にない)国・地域の調べ学習分担地域を決め、ミニ発表の時間を設けます。

まず、文化とは何か、差別とは何か、なぜ差別がなぜ起こるのか、なぜ多文化教育が必要なのか、という基本的なところから学習します。

前半では日本の多文化教育の歴史を追いながら、社会の変遷を学習し、後半では世界諸地域の多文化共生の取り組みを学習していきます。

指定教科書以外に、文献や資料を適宜配布し、それに基づいて授業を進めます。

評価

ほぼ毎回ミニレポートを提出してもらいます。その積み重ねを評価に加算します。試験は学期末レポートです。ミニレポート+学期末レポート+クラスでの貢献度で総合的に評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：泉千勢・一見真理子・汐見稔幸編著(2006)『世界の幼児教育・保育改革と学力』明石書店 ￥2600

参考図書：山田千明編著(2006)『多文化に生きる子供たち 乳幼児期からの異文化間教育』明石書店 ￥2600

OECD編著 星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳『OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア(ECEC)の国際比較』明石書店 ￥7600

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要

乳児の保育に必要な理論や知識をもとに、乳児保育の意義や重要性について理解を深め、乳児保育を担当する保育士としての役割や望ましい援助の在り方、保護者への育児支援等について考察を深める。

学修目標

子ども一人一人を大切にする保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

1	乳児保育 オリエンテーション
2	乳児保育とは
3	赤ちゃんの能力と発達の関係
4	乳児期の母子関係（3歳児神話との関連）
5	0歳児の生活と母子関係
6	0歳児の生活の様子（特徴と留意点）
7	1歳児の生活の様子（特徴と留意点）
8	2歳児の生活の様子（特徴と留意点）
9	乳児期の言葉の発達（遊び・絵本）
10	乳児期の病気と事故
11	保育者の役割 「先生ママみたい」（テーマ選択しグループ討議）
12	連絡帳の書き方・保護者への返事の検討（グループ及び個人）
13	乳児保育の指導計画 （指導案作成）
14	保護者に対する支援
15	総合学習

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にす保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

1	乳児保育 オリエンテーション
2	愛着の意義・愛着の関係性障害
3	乳児院事例から子どもにとっての愛着と保育者にとっての愛着についての考察
4	乳児保育担当者である新卒保育者の保育日誌検討
5	保育実践事例討議(グループ)
6	討議発表(グループ)
7	発達障害・気になる子どもの乳児の特徴と対応
8	子ども虐待の特徴と対応
9	保護者支援
10	子どもの気質・新生児の行動変容と保育
11	連絡帳の意義と書き方の留意点
12	乳児クラスのけんか場面の保育分析
13	乳児院の現状と課題
14	医療保育の現状と課題
15	乳児保育に総括

評価

授業への積極的な参加を期待する。

評価は、授業態度および研究発表や討論の参加度20%

毎回のコメントと提出レポートを20%、試験60%、出席状況で行う

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	A1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次の前期は特に就職目前のことも考慮に入れ授業を進めていく。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラピノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次のぜんきは特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラピノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術B		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A」をとったものが進む。

基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

大きな科目目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次の前期には特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A」をとったものが進む。

基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

大きな科目目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次の前期は特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術C		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次の前期は特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術Cは下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『こどものうた』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラピノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。この段階では「節句のうた」などを中心に学んでいく。まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次の前期は特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術Cは下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『こどものうた』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。この段階では「節句のうた」などを中心に学んでいく。まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術D		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次前期は特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術Dは下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『園の行事』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。選択人数により内容が異なることもある。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラピノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術D」ではテーマソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、「日音楽の新曲」を中心に2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

4年次の前期は特に就職目前のことも考慮に入れて授業を進めていく。

内容

音楽技術Dは下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『園の行事』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。選択人数により内容が異なることもある。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術D」ではテーマソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、「日音楽の新曲」を中心に2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画（週案・日案） / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・ 幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・ 乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程 / 指導計画（週案・日案） / 行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	児童文化		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

- 第1回 児童文化とは何か
- 第2回 子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
- 第3回 年中行事と子どもの生活
- 第4回 子どもの伝承遊び
- 第5回 子どもの衣服・食事・部屋
- 第6回 情報化社会と子ども
- 第7回 伝統玩具（人形も含める）と子ども
- 第8回 教育玩具、キャラクター玩具
- 第9回 遊具、公園、遊園地
- 第10回 わらべ唄、唱歌、童謡
- 第11回 おはなしの歴史的変遷（昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど）
- 第12回 紙芝居の世界
- 第13回 人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
- 第14回 絵本の世界
- 第15回 幼年文学の世界

評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童文化 子どものおあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	児童文学特論		
担当教員名	皆川 美恵子、松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「児童文学特論」として、子どもたちを取り巻く物語世界が、どのようなものを具体的に考察していく。二人の担当者による二部構成で特別講義を進めていくが、前半は、小学校の国語の教科書も編纂している松木により、国語科教材としての児童文学を取り上げる。後半は、皆川により、学校教育場面では取り上げることの少ないと思われる作品を題材にして、子どもの文学の広さと深さについて考察を試みて行く。

内容

前半を松木、後半を皆川と分けて担当する。

- 1回 オリエンテーション 子どもたちを取り巻く児童文学の諸相
- 2回 小学校1年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 3回 小学校2年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 4回 小学校3年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 5回 小学校4年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 6回 小学校5年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 7回 小学校6年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 8回 エリノア・ファージョンの児童文学
- 9回 アリソン・アトリーの児童文学
- 10回 フィリッパ・ピアスの児童文学
- 11回 ルーマ・ゴッデンの児童文学
- 12回 石井桃子の児童文学
- 13回 松谷みよ子の児童文学
- 14回 安房直子の児童文学
- 15回 まとめ 物語を享受する子どもたち

評価

意見発表、討議など授業への積極的取り組み方40%、レポート成績60%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『教科書掲載作品（小・中学校編）』 日外アソシエーツ

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

「保育実習」「保育実習」、「保育特別実習」「保育特別実習」「保育特別実習」、「幼稚園教育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も、必要に応じて受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

【前期の主な授業内容】

< 「保育実習」「保育実習」の事前指導 >

- ・授業概要とスケジュール / 各実習の目的と方法
- ・実習内容、実習生としての心構え
- ・乳幼児への援助のあり方
- ・実習日誌 / 指導案 / 実践演習
- ・実習施設別のグループワーク
- ・個別指導

【後期の主な授業内容】

< 「保育実習」「保育実習」の事後指導 >

- ・実習後の振り返り（グループディスカッション、個別指導）
- ・実習課題（自己課題 / 保育課題）の確認

< 「幼稚園教育実習」の事前指導 >

- ・3年次「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え
- ・実習内容の確認
- ・幼児期の発達による教材選択や指導のねらい、留意点
- ・実習日誌の意義と書き方 / 指導案 / 模擬保育
- ・個別指導

< 「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」の事前指導 >

- ・各実習の目的と方法

・実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50%）や課題提出（50%）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育実習		
担当教員名	野口 隆子、山田 陽子、横井 紘子、権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習」とともに必ず履修しなければならない。（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに4年次に保育特別実習「 」もしくは「 」を選択履修すること。）

科目の概要

原則3年次に2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1～2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達と保育のあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺の仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に重要である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

< 保育実習 の主な内容 >

- 実習施設の概要の理解、
- 保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）
- 乳幼児の発達
- 保育課程・指導計画の理解
- 多職種職員の連携によるチームワークの実情
- 家庭・地域の連携
- 保育方法と保育技能の理解と習得
- 安全・危機管理
- 疾病予防や健康維持を図る配慮
- 保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	潮谷 恵美、鈴木 晴子、向井 美穂、権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育実習 は施設実習であり、保育士資格取得の必修の実習です。3年次に保育所を除く児童福祉施設および知的障害者施設で、11日～12日間（実実習時間90時間）の実習を行います。宿泊実習が原則です。施設保育士として必要な資質を、実践を通して身に付けていきます。本実習の目的は次の4点です。

施設実習園の設立の目的や運営の理念を念頭に置きながら、児童および利用者の方と共に生活し実習することにより、児童福祉施設・社会福祉施設の役割や社会的意義を体験的に理解します。

施設内で取り組まれている保育、食事・排泄などの日常生活に関わる援助技術等を実践によって具体的に学びます。

施設を利用している児童や利用者と分かり合える関係になり、相手にふさわしい関わりができるようになるために、相手を理解し、相手に自分自身を理解してもらう方法を実際に関わりながら学びます。

施設で働く保育士の職務や役割、他職種との連携を具体的に理解し、担当職員の指導を受けながら実践します。

内容

具体的な指導は保育実習総論 の年間30回の計画に従う。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 初インテ-ション報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導（学内反省会） 個別指導（評価表にそって）」の流れにのっとり進めます。

<学内での事前指導>

施設実習は施設の種類の多様で、実習時期の幅も広いため、全体指導の他にグループ指導および個別指導を丁寧に行い、実習に向けての心構えを作ります。主として「保育実習総論」の授業内で行いますが、それ以外の時間を設定することもあります。

<施設での実習内容>

・実習は大学の指定する施設で行います。主な実習内容は次の2点です。その他については施設の種類や対象年齢、施設実習園の方針等によって異なります。

日常生活全般の流れに沿って環境を整え、集団生活の中での基本的な生活習慣や社会性を個々に応じて支援します。

食事、排泄、入浴、着脱衣の生活処理能力としてのADL(日常生活動作)の自立を支援し、必要な援助を行います。

・実習後、日誌を書くことによって保育体験の中身を自分自身で振り返ることと、実習指導者から反省会の場で直接指導を受けたり、日誌への講評を頂いたりする過程で、日々の実習での学びを積み重ねていきます。

<学内での事後指導>

実習全般を振り返り、グループ指導の中で各自が自分の実習を振り返りつつ互いの経験を共有して、これからの保育の学びの糧にします。必要に応じて個別指導も行います。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受け、日誌の提出具合やその内容などを総合的に判断し、評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	保育特別実習		
担当教員名	向井 美穂、野口 隆子、上垣内 伸子、権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格取得のためのの実習として、必修の「保育実習（「保」と略す）」「保育実習（「保」と略す）」のほか、この「保育特別実習（「特」と略す）」か「保育特別実習（「特」と略す）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「特」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「特」を履修することとする。「保」「保」「保育実習総論」を履修後に取り組み実習であるため、4年次に必ず履修すること。

科目の概要

「特」での実習では、今までの実習や主として「保」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保」の実習経験と「特」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラス(原則3歳未満児クラス)に連続して入れていただき、責任実習をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。実習時期と内容により事前事後指導が3年次の「保育実習総論」、4年次の「幼稚園教育実習」でおこなう。そのため「幼稚園教育実習」の指定された授業に参加すること。

内容

「保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保」とは違う保育所で実習すること。また、実

習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。また、事前指導及び事後指導への取り組み、必要提出書類の状況等も評価に反映させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

【教科書】

授業内で指定する

科目名	保育特別実習		
担当教員名	鈴木 晴子、潮谷 恵美、向井 美穂、権 明愛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習 」「保育実習 ｣のほかに、「保育特別実習（特 ）」、この保育特別実習（特 ）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図る場合は「特 」、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「特 ）」ということになる。

特 は、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけており、「保育実習 ｣で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標としている。。また、児童福祉施設の持つ社会的役割や機能、子どもの家族や地域社会における援助など、子どもを取り巻く社会的環境についても視野を広げ、そうした視点を養うことも目標である。実習配属にあたっては、受け入れ先との交渉、その他の実習スケジュールとの関係も考慮する必要がある。

内容

実習先を自己開拓することが求められる。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。実習先を自己開拓するにあたっては 施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する 子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する 実習施設の生活環境などを理解する 子供たちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する 施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する、といったことを整理した上で検討することが必要である。

また、施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めていくこと。さらには実習先によっては障害に関する専門的知識を有していることが必要とされる。よって、実習先に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨むことが求められる。

実習では、「保育実習 ｣で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが臨まれる。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障害に対する見方等についても振り返ることが求められる。

評価

大学指定の評価表に基づいて実習先からの評価を受け、日誌の提出具合やその内容などを総合的に判断し、評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 阿部和子・増田まゆみ・小櫃智子編 最新保育講座 1 3 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育・教育特別実習		
担当教員名	上垣内 伸子、山田 陽子、向井 美穂、野口 隆子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育・教育特別実習は、児童幼児教育学科の学科専門科目である。免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。履修希望者は、履修登録前に、実習課題および実習計画書を担当教員に提出し、事前の相談を行った上で履修登録を行う。3年次および4年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、それに先立つ個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持って実習に臨んでもらいたい。

科目の概要

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上などを目的とする、インターンシップの性格を持つ実習である。現場指導者と科目担当者から指導を受けながら、1年間または一定期間の現場実習と、実践記録の作成、それに基づく省察を深める。

学修目標

- ・受講生自身が設定した目標への到達を目指す。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1日実習（12日程度）の実習

2週間継続実習

1週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況によって総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各実習によって異なるので、受講生と相談して決める。

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目で、幼稚園における教育実習の事前事後指導のための科目である。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための実習を行う際には、必ず本科目を併せて履修することが求められる。

科目の概要

実習前には、実習を行う幼稚園の組織、保育形態、今回行う実習の目的・目標などの理解を促し、実りある実習につなげていきたい。

実習に求められる様々な知識や技能が習得されているか、幼児理解、保育者の役割の理解などを確認、する。

実習後も、保育日誌などの記録を基に、じっくりと考察・討論し、保育者を目指す自己の保育行為の評価と課題の明確化を促したい。

学修目標

- ・実習に必要な事前学習と準備が整っている。
- ・実習後に自己の保育行為を評価し課題を明確化できる。

内容

（１）事前指導（参加観察実習）

学内での担当教員による実習の目的・目標、内容等に関わるオリエンテーション

実習園園長・実習担当者を学内に招聘しての特別講義

実習園に出向いての、園長・実習担当、担任等によるオリエンテーション

園の周辺の環境の自己調査と把握、環境特性の理解

（２）事後指導（参加観察実習）/ 事前指導（総合実習）

クラス全体、グループ、実習園別、担当年齢別、個別面談等、様々な規模と形態での話し合いを重ねながら、1週間の参加観察実習を振り返り、実習に関しての自己評価を行うと共に、総合実習に向けての課題を設定し、それに向けての準備に取り組む。

総合実習に置いて取り組む指導案作成、責任実習のために、これまでに学んできた知識・技術の確認と、保育日誌等を基にしたの保育対象である子ども・子ども集団の理解に努める。

実習園にて、総合実習に関するオリエンテーションを受ける

（３）事後指導（総合実習）

実習園においての実習の総括としての反省会

学内での実習報告、これから実習を行う下位学年に向けての発表と話し合いを通して、自分にとっての実習成果は何かについて考える

自己の成長部分、努力が現れた取り組み、反省点などを踏まえて自己評価を行う。

事前指導では、幼稚園教育の基本となる考え方、子どもの生活実態、発達特性など、保育実践の土台となる知識を整理し、

これまでの実習体験や保育シュミレーションなどを通して、保育者としての自己課題を明確にすること、指導計画作成、教材研究など、実習に向けての具体的準備を行うことに取り組む。

自分の保育を振り返って反省し、主体的に評価を行うことが、保育実習後に学内で行う事後指導の要点である。保育実習日誌などの記録を手がかりにして、自己の対象理解と保育行為について、クラスの仲間や指導教員と話し合い、更なる保育実践力の向上に向けて踏み出す契機とする。

評価

学内外での実習指導への参加状況(50%)、実習日誌やレポート等の提出(50%)によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領解説（フレーベル館）

改訂2版 幼稚園 わかりやすい指導計画作成のすべて．柴崎正行編著 （フレーベル館）

【推薦書】新版 遊びの指導．幼少年教育研究所編著 （同文書院）

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、山田 陽子、横井 紘子、野口 隆子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。幼稚園教諭免許状取得のための最終の現場における総合的実習である。

科目の概要

本学科が指定した実習園にて、4週間の教育実習を行う。

保育観察、保育補助、保育計画の立案、教材研究、責任実習を行う。

学修目標

- ・これまでの専門的学習成果、保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮すること
- ・幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うこと
- ・社会人、職業人としての基礎的常識、行動のしかたを身につけること
- ・幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手だてを考えることができること

内容

実習期間は参加観察実習1 週間（3 年次後期）、総合実習3 週間（4 年次前期）に分けられる。

実習中は毎日保育日誌を書き、幼児集団を指導する部分実習（数回）および責任実習（1~2 日）を行う。

部分実習・責任実習においては指導計画を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

詳細は、「実習の手引き」を参照のこと。

評価

実習指導園に実習ごとに評価を頂き、それを参考に実習担当教員が評価する。評価の観点は「実習の手引き」に示してある。

実習日誌、事前事後指導における出席、提出物等も評価対象になる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育実習 に準じる。

その他は、実習授業開始時に指定する。

科目名	保育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。幼児教育学の中でさらにこの専門領域について追究し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としています。ここでの学びが卒業研究に続いていきます。

科目の概要

現在の子どものおかれている社会環境のもとで、保育の場に何が求められているのかについて考え、各自の保育観づくりに役立つことを目的とする科目です。

保育の基礎となる発達理論について、その概念を抑え、保育という窓からどのようにとらえられるのか、それら発達理論を踏まえて保育をどのように展開していくのかについて、これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かしながら考えていきます。

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたいと思います。

学修目標

- ・自分の保育実践を省察し子ども理解を深める
- ・保育者に求められる多様な役割を構造化してとらえる。
- ・1年間の保育の流れや卒園までの発達の経過を構造化してとらえる。
- ・自分の保育実践に新たな視点を加えることを目指す。

内容

1	保育とは
2	子どもと保育者（大人）の関係
3	自発的な活動としての遊び
4	愛着理論について理解する
5	愛着理論を保育の営みの中でとらえる
6	愛着理論を踏まえた保育援助の在り方について考える
7	アフォーダンスについて理解する
8	「環境を通しての保育」とアフォーダンス
9	アフォーダンスを踏まえた環境構成の在り方について考える
10	アフォーダンスを踏まえた保育援助の在り方について考える
11	心の理論について理解する
12	「仲間関係の発達」と心の理論
13	心の理論と特別な配慮が必要な子どもの理解と保育援助
14	心の理論を踏まえた長期的視野に立った指導計画と保育援助
15	まとめ

評価

授業への参加状況（30%）、学期内の小レポート（40%）、学期末のレポート（30%）の比率で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回プリント資料を配布する

【教科書】初回授業時に指定する

【推薦書】津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

津守真・森上史朗監修 『倉橋惣三文庫全10巻』 フレーベル館

その他、授業時に指示する

科目名	保育学		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。受講する学生は1・2年次の学習で身に付けた保育の知識があり、保育所や幼稚園での実習で保育観察を行い、実際のかかわりも経験しています。そのため、この科目では、学習する内容と保育の実際をつなげてとらえる姿勢を持ちながら、保育を構成する内容についての専門的な知識や考えを深めていきます。

科目の概要

この科目の目的は次の2点です。どちらも「保育の主人公は子どもである」ことを念頭において、取り組みます。

- ・保育を構成するそれぞれの内容を把握し、それらが相互に関連しあって日々の保育の営みを作り出していることを理解します。尚、実習での保育場面を振り返ることで実感を伴った理解を目指します。

- ・保育者に要求される多様な役割に気づき、理解します。特に、中心となる「子ども理解と援助」の考え方や方法については、教科書や各自の実習での体験の振り返りなどによって丁寧に学びます。

学修目標

1. 保育を構成するそれぞれの内容を理解し、総合的にとらえる。
2. 子ども理解と援助を中心にしながら、保育者に要求される多様な役割を理解する
3. 各自の中にある子ども観や保育観を耕し、新しい見方や考え方を加えていく

内容

1	子ども観と保育の営み
2	保育的關係から紡ぎ出す子ども理解
3	保育の現状と機能
4	子どもが生きる保育の場
5	遊びの特性と目的
6	遊びと子どもの発達(1)
7	遊びと子どもの発達(2)
8	保育の内容
9	保育の環境
10	保育の方法・形態
11	保育の計画と記録・評価
12	フレーベル幼児教育他
13	シュタイナー幼児教育他
14	保育者の役割
15	まとめ

評価

学修目標に関する授業時のレポート(40%)および学期末のレポート(50%)、さらに通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】ステファニー・フィーニイ他 Who am I 研究会訳『保育学入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】子どもと保育総合研究所森上史朗他『yaよくわかる保育原理第2版』ミネルヴァ書房

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育学演習		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目(選択科目)です。卒業研究につながる演習科目です。科目担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、この科目を履修することが求められます。

科目の概要

「保育学」で学んだことを継続発展させ、文献購読や、具体的な保育事例研究を行います。自らの保育実践記録や、保育実践研究、事例研究、保育記録を基に、保育理解、子ども理解を深めていくことを目指します。

ドキュメンテーションの作成など、保育をビジュアルに表現することを試みます。

保育室でのロールプレイなど実際に動きながら、子どもの気持ちに気付いたり、保育援助を考えたりしましょう。

日本だけでなく、諸外国の保育の実態や課題についても学びましょう。

学修目標

- ・卒業研究をすすめていく上で求められる基礎的な知識や技能を獲得する。
- ・研究論文に親しみ、保育研究法の理解をする。
- ・保育実践記録の作成と読み取りの力を養う。

内容

1. 保育実践記録/保育ドキュメンテーション/ポートフォリオ等の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

2. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録・事例研究や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

自らの保育観・児童観・発達観の形成につなげると共に、実践研究の方法を学ぶ。

3. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

4. ロールプレイや環境構成の体験

自分の立てたねらいに基づいて実際の保育室の環境構成を行ったり、ロールプレイを行い、保育援助について理解する。

5. 文献講読

保育理論と保育実践に関わる研究論文や著書を分担して読み、討論、報告する。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況(70%)、学期末のレポート(30%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

科目名	保育学演習		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科の性格

この科目は幼児教育学科の学科専門科目です。「保育学」での学習を基盤にしながら「遊びをとおして総合的に保育する」ことについて追究することで、保育についての専門性を深めていきます。

教科の概要

この科目の目的は次の2点です。

- ・子どもがそれぞれの遊びで感じ取っている「その遊びのおもしろさ」に気付き、理解し、一緒に楽しむ感性を磨きます。
- ・子どもにとって遊びとは何か、どう指導・援助すればよいかについて、教科書や各自の実習での保育経験を手掛かりとしながら、各自が自分の課題として取り組み、自分なりの答えを見出していきます。

学修目標

1. 子どもにとっての遊びのおもしろさを子どもの立場で考え、理解する。
2. 遊びの中での子どもの発達をとらえる際の肯定的な見方について理解する。
3. 子どもの遊びに適切な援助をするために多様な援助の方法を知り、把握する。
4. 卒業研究に取り組むにあたっての基礎的な知識を獲得する。

内容

1	保育における遊びの指導・援助を考える(1)
2	保育における遊びの指導・援助を考える(2)
3	名もない遊びのおもしろさを理解する
4	ルールのある遊びのおもしろさを理解する(1)
5	ルールのある遊びのおもしろさを理解する(2)
6	生き物とのかかわりのおもしろさを理解する(1)
7	生き物とのかかわりのおもしろさを理解する(2)
8	探検遊びのおもしろさを理解する
9	ごっこ遊びのおもしろさを理解する
10	年齢別でのごっこ遊びの楽しみ方を知る
11	絵本や紙芝居のおもしろさを理解する
12	好きな遊びに取り組むことの子どもにとっての意味を考える
13	発達の視点から遊びを考える(1)
14	発達の視点から遊びを考える(2)
15	まとめ

評価

学修目標に関する授業時のレポート(30%)および学期末のレポート(50%)、討論への参加状況通や授業態度(20

%)により評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河崎道夫『新保育論3 あそびのひみつ 指導と理論の新展開』ひとなる書房

【推薦書】小川博久『遊び保育論』萌文書林

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育臨床学		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本授業では、日常生活の当たり前や各自が備えている認識の枠組みを問い直すことから、子ども、ひいては人間=自分自身をより深く豊かに理解していくことを目的とする。

具体的には、人間にとって根源的なテーマをとりあげ、文献購読、保育実践事例の検討を行う予定である。様々な保育実践のエピソードに触れることから、保育者と子どもとが織りなす世界に触れ、保育のおもしろさ・難しさ・複雑さも感じてほしい。

随時配布する資料やリアクションペーパーで授業の振り返りを行い、子どもを理解するまなざしがより深く豊かなものに再構成されることを期待する。

内容

1	人間を理解すること
2	人間を理解すること
3	子ども観・家族観の問い直し
4	言葉をめぐって考える
5	言葉をめぐって考える
6	からだをめぐって考える
7	からだをめぐって考える
8	気分・感情をめぐって考える
9	気分・感情をめぐって考える
10	空間をめぐって考える
11	空間をめぐって考える
12	遊びをめぐって考える
13	遊びをめぐって考える
14	遊びをめぐって考える
15	まとめ

評価

平常点20点 小レポート30点 まとめの小論文50点 で評価する
60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内でプリントを配布する

科目名	保育臨床学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

働く母親が増加し、保育や幼児教育のニーズは増えているが、これは量的のみならず保育内容の多様化も求められている。ゼロ歳児保育、病児保育、病後児保育、病棟内保育などこれからの保育現場は広がりを見せている。健康な時だけの保育ではないため、様々な病気の理解や、薬の飲み方、さらに学校保健分野も学習する必要がある。子どもの便や尿からも健康状態が把握できる。ノロウイルス感染や虱などは集団保育では避けて通れない。子どもと一緒に病気と付き合える保育士を目指してほしい。また、子どもたちの健康維持のための理解のできる健康教育も学んでほしい。小児科専門医師が視聴覚教材を使い、分かりやすい授業を実施する。

内容

- 1,発熱、腹痛、嘔吐、下痢など子どもによくある症状
- 2,こどものけが、スポーツ外傷
- 3,かぜ症候群と保育の注意
- 4,熱中症、日射病などの夏の保育の注意
- 5,食中毒と保育
- 6,子どもを取り巻くタバコ環境
- 7,女性と喫煙
- 8,子どもによくある感染症1
- 9,子どもによくある感染症2
- 10,最近の予防接種
- 11,学校保健安全法
- 12,感染症サーベイランス
- 13,病時保育と与薬
- 14,復習と質問
- 15,まとめと解説

評価

定期試験80% レポート20% によって評価し60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 適宜プリント資料を作成、配布

[推薦書] 日本外来小児科学会編著「お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド」医歯薬出版株式会社
日本外来小児科学会編著「お母さんに伝えたい子どものくすり安心ガイド」医歯薬出版株式会社

科目名	保育臨床学演習		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

保育臨床学と同様、より豊かに乳幼児期の子どもの世界を理解することをめざす。

序盤では、保育をめぐる今日的な課題を何点かとりあげ、現状と課題を検討し、乳幼児期の育ちを捉えるまなざしを養う。

中盤では、教科書を用い、テーマごとに保育のエピソードを読み、考察する。ここでは、自分でもエピソードを書くことを課題としたい。後半では、インタビューデータやエピソードを用いた論文を講読する。

後期では卒業研究を書くにあたって、問いをたてたり、自分で感じたことや考えたことを的確に言語化する力をつけることを意識し、リアクションペーパーやエピソードにまとめることを求める。

内容

1	保育の現状と課題から
2	保育の現状と課題から
3	保育の現状と課題から
4	保育の現状と課題から
5	保育の現状と課題から
6	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
7	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
8	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
9	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
10	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
11	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
12	エピソードを読んだの考察（グループワーク）
13	論文講読
14	論文講読
15	論文講読

評価

平常点20点 リアクションペーパー30点 エピソード20点 期末レポート30点で評価する。合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

『エピソード記述で保育を描く』鯨岡峻 鯨岡和子 著 ミネルヴァ書房 2009

科目名	保育臨床学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育のニーズの多様化の中で、病気についての理解を持つ保育士をめざし、前期の保育臨床学の授業を踏まえ、さらに演習を等して主体的な取り組みを期待する。病気の後や具合の悪いときの対応として、食事、や水分補給の考え方、増えている予防接種の接種順なども実践的に学ぶ。子どもが理解できる健康教育の実践の為にグループワークの中で各自が唱、紙芝居、人形劇、ロールプレー等を工夫する。

救急蘇生の実習では人形やAEDを使い全員が実演する。小児科専門医が経験に基づいた授業を実施するが、学ぶ意欲のある学生に参加してほしい。

内容

- 1,尿路感染症について 脱水時の水分補給とORS
- 2,発熱、下痢、脱水時の食事メニュー作成
- 3,予防接種の接種モデル作成
- 4,保育現場での感染症事例検討
- 5,食物アレルギーとは 事例検討
- 6,食物アレルギー対応と食物成分表示の見方
- 7,救急時の対応とAED使用法
- 8,救急蘇生実習
- 9,子どもの喫煙防止教育
- 10,動物由来感染症事例について
- 11,子どもの事故防止ポスター作成
- 12,園でのけがの対応
- 13,健康教育紙芝居の作成
- 14,健康教育紙芝居の発表 復習
- 15,まとめと解説

評価

レポート20% 実習参加度20% まとめのテスト60% で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は面接にて評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書]適宜プリント資料を作成、配布

[推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著「子育て支援における保健相談マニュアル」日本小児医事出版社

科目名	保育実践論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

授業では、保育に関連する近年の様々なトピックや調査研究を取り上げ、保育の実践に結びつける知識を身につけ学ぶことを目的としています。尚、後期に開講される保育実践論演習とあわせて履修することが望ましいと考えています。

科目の概要

授業の中では子ども・保育者・園の3つの観点から、保育実践及び保育実践を理解するための方法を学びます。事例や視聴覚資料など、様々な資料を用いながら考えたり、グループディスカッションをおこなう機会を設けたりすることでさらに理解を深めたいと思います。

学修目標

受講者が自分自身の興味関心の枠組みを広げ、知識や研究と実践を結びつけること、思考する力・実践する力を養う。

内容

1. 授業概要やスケジュール、評価等の解説
2. 保育の「研究」とは
3. 「問い」をたてる
4. 保育研究の方法論
5. 保育研究：グループディスカッション
6. “見える保育”と“見えない保育”
7. 映像から見る保育 : 保育の視点
8. 映像から見る保育 : 保育の改善
9. 保育記録
10. 保育の質と評価
11. 保育者の専門的発達 : 保育者の成長とメンタリング
12. 保育者の専門的発達 : 園文化と学び、園内研修
13. 子どもを取り巻く環境の変化
14. 子どもの学び：保育の国際比較研究
15. 総括

評価

授業への参加度や授業終了後のコメントペーパー（20点）、授業時指定の課題提出（30点）、期末レポート(50点)により評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に使用せず、随時資料等を配布します。

[参考書]

幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価 文部科学省

科目名	保育実践論演習		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

前期科目「保育実践論」で学んだことをさらに発展させ、保育に関する研究やその方法を具体的に学び、保育に携わる上で生じる疑問点や問題点を追求する力を養う。

科目の概要

保育を理解する上で、様々な調査研究とその方法に親しみ、保育をより多角的に理解する力、子どもを見る目を培うことを目的とする。そのため、授業内でとりあげるテーマを設定する場合もある。受講者の人数と希望に応じて、テーマを共に考えてグループワークをおこなったり、文献購読を通してグループワークをおこなったりする予定である。

学修目標

保育を学び理解するための視点を構築する。受講者は、レジュメ作成と発表を担当し、内容の理解を図るとともに、発展的な問題提起をおこなうことが求められる。また、グループワークを通して互いの意見・考えを交換し学びあう経験を積むことで、個々の学びだけでなく、協同的に学ぶ意欲を培う。積極的に参加する姿勢を持ってほしい。

内容

主として以下のような授業内容を予定している。

1. はじめに：授業の目的と概要・評価の説明、グループワークの方法について
2. 子ども、保育者、園からみた保育実践：研究紹介
3. 子ども、保育者、園からみた保育実践：研究紹介
4. 保育探究のための方法論
5. プレゼンテーションの技法
6. 文献購読と発表、ディスカッション
7. 文献購読と発表、ディスカッション
8. 文献購読と発表、ディスカッション
9. 文献購読と発表、ディスカッション
10. 文献購読と発表、ディスカッション
11. 共同研究テーマとグループワーク
12. グループワーク
13. グループワーク
14. グループワークの発表とディスカッション
15. 総括

受講者確定後、具体的なテーマとスケジュールを決定する。

評価

授業への参加やコメントペーパー（20点）、レジュメ作成等の課題提出と発表（50点）、グループワーク（30点）から評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指定。また必要に応じて随時資料を配布する予定。

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。

科目の概要

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

学修目標

- ・乳幼児期から児童期への心理学的発達の特徴を研究例を通して理解する。
- ・最新の研究知見を日常の経験や実習での体験などと結びつけて考察し、人間の発達について包括的に考える力を身につける。
- ・各回の講義後に出される課題を次回授業開始前までに提出し、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

1	発達心理学とは
2	人生における胎児期・乳幼児期の意味
3	人間発達の可塑性
4	母子相互作用
5	世界の認識
6	気質・社会性
7	象徴機能の成立と言語発達
8	言語の機能と会話の発達
9	記憶
10	心の理論
11	遊びの発達
12	思考と語り
13	科学する心
14	生活世界から学びの世界へ
15	まとめ・質疑応答

評価

授業中の提出課題(15回)100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法(講座生涯発達心理学;第1巻)』無藤隆・やまだようこ編集(金子書房)

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編(金子書房)

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編(金子書房)

科目名	発達心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人間生活学部児童幼児教育学科幼児教育専攻の専門科目(選択)である。後期に「発達心理学演習(大宮)」を履修予定の学生は、前期にこの科目を履修していることが必要である。

科目の概要

ことばは、コミュニケーションの手段とともに思考の道具である。私たちはことばをどのように獲得してきたのだろうか。この科目では人間の発達の中で、特に「ことばと思考」に焦点をあてて、乳幼児のことばや思考の発達、ことばの発達の障害について理解を深め、ことばを育てる初期環境の重要性を考える。

学修目標

1. ことばの発達過程を理解する
2. 子どもの思考の発達過程を理解する
3. 言語発達の障害について理解する

毎回の授業の中で、リアクションペーパーを書き、授業内容について各自が考察する。

内容

1	ことばと思考の発達について：導入
2	ことばの獲得を支えるもの
3	ことばの発達過程
4	語彙の発達
5	読み書き能力の発達
6	絵本との出会い
7	前半のまとめ
8	会話の発達
9	ことばの発達の個人差
10	第2言語獲得
11	言語発達の障害の基礎
12	言語発達の障害の実際
13	子どもの思考(1)
14	子どもの思考(2)
15	まとめ

評価

毎回授業内のリアクションペーパー30点、期末筆記試験・レポート70点で評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜資料を配布する。

【推薦書】岩立志津夫・小椋たみ子編 『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房
内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

発達心理学や関連領域(保育実践など)の実証的研究論文を中心に講読し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

科目の概要

研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につけ、実際に研究計画を立てる力を養うことを目的とする。学生一人一人が1本ずつ発達心理学や関連領域の実証的研究論文を講読し、内容を要約して発表し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

前期に発達心理学を履修済みの学生のみ受講を許可する。また、4年次の卒業研究に発達心理学分野を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

学修目標

- ・発達心理学の古典的論文を通して、専門知識について理解を深める。
- ・各人が自分の担当文献の内容をまとめたレジュメを作成し、内容を発表することで、研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につける。
- ・研究の意義や批判点について参加者全員で討論することで、批判的思考力、課題解決力を養う。

内容

1	授業ガイダンス：レジュメ作成方法,発表の方法
2	担当教員による発表・討論
3	学生による発表・討論
4	学生による発表・討論
5	学生による発表・討論
6	学生による発表・討論
7	学生による発表・討論
8	学生による発表・討論
9	学生による発表・討論
10	学生による発表・討論
11	学生による発表・討論
12	学生による発表・討論
13	学生による発表・討論
14	学生による発表・討論
15	まとめ

評価

分担分の発表80点、他の学生の発表時の取り組み20点として評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉村伸一郎・坂田陽子編 『実験で学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版

その他、適宜、資料を配付する。

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目(選択)である。この科目を履修する場合には、原則として、前期の「発達心理学(大宮)」を履修していることが必要である。

科目の概要

各受講者が、自分の関心と興味に基づいて、言語の発達や保育に関連する研究論文を読み、レジュメを作成し、パワーポイントによる発表を行う。

学修目標

論文・資料の探し方、論文の読み方、レジュメの作り方、パワーポイントによるプレゼンの仕方など、卒業研究を完成させる力を養うことを目的とする。

内容

学生が各自の興味・関心に基づき、言語発達心理学や保育に関連する研究論文を読み、レジュメを作りパワーポイントにより内容を発表し、研究の意義や今後の展開について履修者全員で討論する。

- (1)授業ガイダンス
- (2)担当教員による発表
- (3)～(14)学生による発表
- (15)まとめ

評価

分担部分の発表80点、ゼミへの参加度・ゼミ中のコメント20点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】必要に応じて資料を配布する。

科目名	臨床心理学		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児教育専攻の専門科目であり、選択科目である。

科目の概要

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて実践的に援助するための学問である。本科目では、臨床心理学の初歩的な知識を学び、その実践について考えながら学んでいく。

学修目標

臨床心理学の初歩的な知識を学びながら、今日の子どもの臨床的課題を把握する。

授業の中で、子どもたちが生き生きと毎日を楽しむために、臨床心理学がどのように貢献することができるのかについて考えていく。子どもの発達を踏まえ、さまざまな問題が発生する原因について心理学的な見地から考え、その上で、一人の人間としてまた保育者として何が出来るのかを考えていくことを目標とする。

内容

何らかの心理的支援が必要な子どもたちとはどのような状況(環境)にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料(視聴覚教材を含む)をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていく。また子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多い。そうした状況にある親子についてどのような支援が出来るのか、また子どもが抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学びながら援助の方法について考えていく。

以下に述べるテーマを取り上げていく。

1. 現代の子育て事情と支援を必要とする子どもの現状
支援が必要な問題について考える(3回)
2. 事例検討とグループワーク(3回)
3. 子どもの要因:発達障害を中心に考える(3回)
4. 親の要因(1回)
5. 社会的要因(1回)
6. さまざまな環境での子どもの育ちについて(3回)
7. まとめ(1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度(30点)、授業内でのレポート(20点)、最終課題(50点)により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で参考文献等を随時紹介していきます。

科目名	臨床心理学演習		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

支援が必要な子どもたちの心理的ケアについて学ぶ。さらに子どもの支援のみならず、家族支援、地域支援、保育所・幼稚園・学校・専門機関との連携などとの関係を踏まえながら、子どもの育ちを支えるためにできることについて幅広く探ることとする。

グループディスカッションやグループワークを通して学生自身が協力しながら相互学習することを求める。積極的に問題意識を持ち、自分から探求しようとする意欲が求められる内容となる。

受講生の関心をもとに文献の購読、事例研究の分析、子どもに関する時事問題等を中心に考えていく。また子どもの心理的ケアについて、具体的事例を取り上げ、心理学的観点から考えていくこととする。

最終的には受講生自身が持つ子ども観がどのようなものかを自覚し、その上で自身が実践できる支援についての考えを具体的にイメージ出来るようにすることを目標とする。

内容

取り上げる内容としては以下に示すが、グループワーク等をなるべく多く取り入れながら進めていく。また受講生と相談しながら取り上げる内容等を随時決めていく。

1. 支援を要する子どもの現状を理解する(3回)
2. 保育者としてどのような心理的ケアを行うことができるか(2回)
3. 特別なニーズがある子どもたちを理解しその支援について考える(3回)
4. 家族支援とは何か、親子関係を考えることから始める(3回)
5. 様々な研究から学ぶ(3回)
6. 子どもたちが育っていく上で自分に出来ることは何かを考える (1回)

評価

授業内での小レポート(20%)、授業への参加度(20%)、自己課題に即した調査研究(40%)、グループワークの発表(20%)などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内に適宜参考文献を紹介する。

科目名	歌唱表現論		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は歌唱法 ・ で得た知識や技術及び幼児に関わる専門的知識について深く理解することを目的とします。

科目の概要

歌唱表現を充実させるために必要とされる専門知識を修得し、視聴覚資料などを活用して具体的な事例を参考にしながら学修を進める。又、専門教育に関わる必要事項を取り上げ、歴史や教育・発達・環境・指導法などについて、その背景や意義、問題点を具体例を参考に学修する。

学修目標

- ? 子どもの歌に関する正しい知識の修得
- ? 保育現場のニーズに対応できる知識の修得
- ? 保育現場における的確な指導技術の獲得

内容

1	ガイダンス
2	わらべ歌について
3	唱歌について
4	童謡について
5	子どもの歌について
6	幼児の声域と声の発達
7	声の管理（怒鳴り声、小児嘔声・音声障害）
8	詩と音楽の関係
9	マザリーズ・読み聞かせ・素話
10	早期音楽教育について
11	子どもを取り巻く音楽環境
12	子どもと音楽メディア
13	テレビ視聴による子どもの歌唱表現への影響
14	保育者の音楽指導における資質と役割
15	まとめ

評価

レポート（30%）、試験（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

必要に応じて授業中に指示します。プリント配布。

【推薦書】

米山文明『声がよくなる本』主婦と生活社、萩野仁志・後野仁彦『医師と声楽家が解き明かす発声のメカニズム』音楽之友社、奥中康人『国家と音楽 伊澤修二がめざした日本近代』春秋社

科目名	歌唱表現論演習		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は歌唱法 ・ 及び歌唱表現論で学んだ事柄を専門的に活用することをめざし、受講者の実践力を養う事を主眼とする。

科目の概要

教育実習を前提に保育現場を想定した音楽に関わる授業計画を作成し模擬保育を行い、受講者相互に指導上の問題点や改善点を指摘し検討する。

学修目標

- 1、保育現場に適応した音楽に関わる指導計画の立案
- 2、実践による表現力と指導力の修得
- 3、話し合いによる指導法の客観的考察

内容

1	模擬保育の意義
2	音楽に関わる指導案作成時の留意点
3	実習園の状況に合わせた指導案の立案
4	指導案の内容確認及び練習
5	音楽表現について
6	保育の中の表現
7	模擬保育の実践
8	模擬保育の反省と考察
9	実習を終えて（報告と考察）
10	実習園の音楽事情報告
11	実習園での実例検証
12	楽器と演奏法
13	合奏の意義と実践
14	子どもの発達にあった適切な選曲とは（事例紹介）
15	まとめ

評価

実践報告レポート（20%）模擬授業演習（80%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示します。

科目名	造形保育論		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

子どもたちは幼稚園・保育所という家庭とは異なった生活の場の中でも、「もの」と関わり人とかかわる。その「もの」との関わり方捕らえ方で保育も大きく変わる。子ども自らが主体的に生きることを願って行われる保育であるなら、当然自ら感じ考え行動していくことを保育という規範の中で認め励ますことが重要となる。

科目の概要

造形は人間の本性に関わりながら発生する行為そのものであるだけに、そうした保育手段のひとつとしての造形の意義は大きい。

保育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、実践のための基礎づくりをすることがねらいである。子どもの成長発達に呼応した提案、季節や自然との触れ合いなど子どもの興味関心を起点にした活動展開、活動の中で育まれる人との関わりなどに視点を置いて学ぶ。

学修目標

子どもたちの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもたちに育つ環境づくりに関われる人材となるよう自らの保育力を高めることを目標とする。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくために、実際の保育や子どもたちの作品などをVTRなどで提示し、造形を通じた保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図れるための考察と研究を行う。

- 1週 プロローグ
- 2週 保育は生活
- 3週 内的循環論
- 4週 内的循環と援助・刺激
- 5週 コミュニケーション
- 6週 保育のパターンと援助
- 7週 集中と拡散
- 8週 応答的環境
- 9週 共同と協同
- 10週 素材のもつ特性
- 11週 造形発達の目安
- 12週 子ども造形教育の歴史
- 13週 領域「表現」のポイント・領域を超えて
- 14週 保育の二重構造
- 15週 エピローグ

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること（60％）。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックによって、乳幼児と関わる感性、意欲、実践力を評価する（40％）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書「乳幼児の造形表現」平田・小野編著 保育出版社刊 「毎日が造形あそび」平田智久著 学習研究社刊

科目名	造形保育論		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、様々な専門領域の中で、保育における造形や造形表現について追求し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としている。

ここでの学びが卒業研究に結びついていく。幼児造形教育の意義や子どもの造形表現に対する理解、保育者の役割、造形活動の中で育まれるものや人とのかかわりを実技も含めながら学ぶ。

理論と実践を通して、造形活動における子どもの発達に即した理解や多様な表現方法、幼児造形教育の理解を深め自らの保育力を高めることを目標とする。

内容

1	オリエンテーション
2	幼児教育の基本
3	領域「表現」と造形
4	保育者の役割
5	子どもの造形表現の理解について
6	幼児造形教育の意義1
7	幼児造形教育の意義2
8	幼児造形の指導
9	造形教育の歴史
10	グループ演習1：共同製作のための導入（構想）
11	グループ演習2：共同製作（製作）
12	グループ演習3：共同製作（製作）
13	グループ演習4：共同製作（製作）
14	グループ演習5：共同製作（製作）
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕無藤隆監修・浜口順子編著『事例で学ぶ保育内容 領域 表現』萌文書林

その他、適宜授業の中で紹介する。

科目名	造形保育論演習		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくとともに、身近な自然や素材との出会いを保障するための保育環境づくりを行える感性を磨くことや、子どもの強い興味関心に基づいた保育展開が図れるための環境づくりを可能にできる能力を磨くことが重要となる。

科目の概要

身近なさまざまな素材の可能性を自らが開発し、子どもの発達や興味関心に呼応させて提案できる資質を磨くことであり、造形的考察と実践的研究をすることが主なねらいである。

その為にはうまい下手ではなく、行動しながら考えイメージをひろげられる「造形的思考力」を高めていく努力を必要とする。

学修目標

保育環境づくりや子どもの発達や興味に呼応させた保育活動を造形的視座から考え実行できる能力を開発することであり、実際に幼稚園や保育所での実習を活用して、実際に学ぶことを目標とする。

内容

1～4 発達と造形行動と...

5～8 心情と造形行動と...

9～12 想像と造形行動と...

13～15 協同と共同と造形行動と...

以上などのような切り口でひとりひとりの充実と集団の充実を図るための造形行動を、具体的に素材に触れて試し確かめて自らの能力開発を行い、造形を通じた保育活動が展開できるようにする。

さらに具体的な試行活動から生まれた作品は保育現場で役立つ教材開発にもなる。

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックや作品を通して、乳幼児と関わろうとしている感性、意欲、実践力(40%)も評価する。しかし、作品の良し悪しでの評価はしない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない。適宜参考図書を紹介する。

科目名	造形保育論演習		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、「造形保育論」を履修後に、選択することが望まれている選択科目である。

保育者は幼児の人やものとのかわりの重要性を理解し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしていく必要がある。

幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に造形的な環境を構成していく力や実際に幼稚園や保育所での実習とも関連させながら子どもの発達を考慮した教材研究を通して将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目標とする。

内容

第1講 オリエンテーション

第2-5講 保育における造形と教材研究について

第6-9講 身近な素材と表現

第10-14講 多様な表現方法について学ぶ

第15講 まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。また活動への取り組み、学習態度（40%）により総合的に判断します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない。適宜授業の中で紹介する。

科目名	身体表現論		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現とは、自分自身の身体を素材として、その運動が媒体となって、自分の思いを外に出し、他へ伝えようとするこ
とで成立する表現の世界である。様々な身体表現形式の歴史を概括した上で、人間にとって身体表現がどのような意義のあ
るものであるかを考える。合わせて保育における身体表現の活動の意義、指導上の留意点などを考えていく。

内容

からだと運動

～ 幼児期の身体表現をめぐって

～ 幼児期における身体表現の指導法について

様々な身体表現の形式をめぐって

身体を感じる、身体で感じるということについて

感性について

表現ということについて

コミュニケーションとしての身体運動

受講資格：「身体表現論」と同時に「身体表現論演習」が受講可能であること

評価

授業への取り組み方を基本とし、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

平常点60%、レポート40%で評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】S・スティンソン 『幼児のためのダンス』 不昧堂

長田 弘 『黙されたことば』 みすず書房 911.56/0

竹内敏晴 『思想する「からだ」』 晶文社 804/T

科目名	身体表現論演習		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「身体表現論」及び既に履修した「身体表現基礎」「身体表現・指導法」を基に、自らの身体表現に関わる能力の進展を計ると共に、身体表現への興味関心を広く深く掘り下げることを目的とする。また、幼児期における身体表現活動の教育的意義、その発育・発達について、教材研究及びその指導法の検討を通して考えていく。

内容

< 自分自身の身体へ向かう >

身体への感性を養う

- 自らの身体を感じ、他者の身体を感じる
- 自らのボディ・コントロール能力を高める
- 動きのボキャブラリーを増やす

< 幼児期の身体表現活動を考える >

- ～ 幼児期における身体表現活動の芽生えをとらえる
- ～ 保育の場での身体表現活動を引き出す教材の工夫
- ～ 保育の場での身体表現活動を展開していく指導法の工夫
- ～ 身近な物を利用して、運動遊び、表現遊びへと発展させていく工夫
- ～ フォークダンスの指導法の工夫
 - その特徴、基礎用語の理解
 - 幼児に指導する際の留意点
 - 身体表現へと発展させていく工夫

受講資格：「身体表現論演習」と同時に「身体表現論」が受講可能であること

評価

授業への取り組み方を基本とし、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

平常点60%、レポート40%で評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】マリオン・ゴーフ 『ダンスの教え方・学び方』 玉川大学出版部

柴真理子 『身体表現』 東京書籍 781.4/S

科目名	児童養護論		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

子どもや子どもの育つ環境は「同じ」というものではなく、それぞれの色合いを持っている。その中には、専門的な援助が介在することで、子どもや親の生活がより豊かになっていくことが家庭がある。親元で生活することができず社会的養護のもとで生活している子ども、親元で生活しているが専門機関・専門職が支えている家族など実にさまざまである。この授業では、子どもたちをめぐる多様な様相や諸問題、実際の支援について児童養護の立場から理解を深め考えていきたい。また、専門職として子どもや家族の生活を「人・環境」から支えていく視点についても洞察し、柔軟かつ適切な判断・援助について考えていきたい。

内容

“子どもが健全に育つとは何か”、“家族支援とは何か”を切り口に以下のテーマを取り上げていく。

1. 子どもの育ちと環境

生活環境の変化

児童虐待

児童福祉施設での子どもの生活と養護

2. 子育て支援・地域支援

子育て家庭の諸問題（育児疲労、育児困難、経済的支援 など）

子育て支援機関と地域のつながり

保育者と他の子育て専門職とのつながり

人と人をつなぐ現場実践（絵本の読みあいを行なった臨床事例の紹介）

3. 発達の躓きの理解と家族支援

療育と家族支援

障害児・者の理解と家族支援

4. 保育者の役割と他職種連携について

支援の質的向上と施設職員のメンタルヘルス

他職種の職務と専門職連携

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜紹介する

科目名	児童養護論		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 本科目は幼児教育専攻専門科目における専門科目群 に位置づく選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目(特に「社会福祉」、「児童福祉」、「養護原理」、「養護内容」等保育必修科目全般)を踏まえてより保育の専門職として必要な児童養護の現状と課題、社会的養護領域の専門性を深く理解、考察できるようになることをめざす。さらに、実践的、発展的な学習として学ぶ「児童養護演習」の基礎知識となる科目である。

科目の概要 児童養護論では社会的養護の内容について、現代の福祉援助課題に対応する児童養護の基本的視座・意義や理念(講義1.2.3.4.)、対象や方法、児童養護の内容の理解(講義5.6.7.8.9.10)、現状と課題並びに今後の展望(講義11.12.13.14)を理解する。

学修の目標 本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で以下の点を理解できるように努力することを求める。さらに、ノート等を取り、基礎的な必要知識事項の確認し、考察することを求める。加えて、授業時間内にリアクションペーパーを配布し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用すること。

講義の目標

- 1 現代の児童養護の意義や理念、対象の理解、援助課題理解
- 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容、児童養護に関わる専門職の理解
- 3 自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な論点の理解
- 4 児童養護の現状と今後の展望理解

内容

内容

- 1 社会福祉の展開と社会的養護
- 2 児童養護の意義と基本原理
- 3 児童養護の歴史1
- 4 児童養護の歴史2
- 5 児童養護の対象と方法
- 6 自立支援の課題1
- 7 自立支援の課題2
- 8 自立支援の課題3
- 9 児童養護の特質1
- 10 児童養護の特質2
- 11 児童養護の現在1
- 12 児童養護の現在2
- 13 児童養護の現在3
- 14 児童養護の課題と展望
- 15 総括

評価

学習目標に関する課題レポート（20点）、試験（50点）、授業態度（リアクションペーパー提出含む）（30点）。60点以上を合格とする。合格点に達さなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義内で示す。

科目名	児童養護論演習		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期科目「児童養護論」で学んだことを発展させ、「子どもが健全に育つとは何か」、「家族支援とは何か」について自主的な学びを目指す。

保育者による実践記録・時事問題・臨床事例・ビデオ視聴等を通して知識と実践をつなげ、柔軟かつ適切な判断力と実践力を養うことを目的としている。また、受講生自身が障害に関する事柄、社会的養護に関する事柄に問題意識をもち、自ら調べることで研鑽を深めることも大切にしたい。

尚、4年次の卒業研究に社会的養護に関連することをテーマとしたい学生は履修していることが望ましい。

内容

保育者による実践記録、文献講読、手記・時事問題、ビデオ視聴、実習体験等を通して探究していく。受講者の関心のあるテーマについてディスカッションを重ね、グループ発表も取り入れる。

取り上げる内容の目安として以下に示す。

1. 支援を要する子どもと保育者の役割(養育における援助、発達支援、施設養護)
2. 施設養護や里親における生活援助
3. 子育て家庭への支援と実際
4. 環境や心身に障害をもつ当事者・家族の障害受容
5. 子どもの人権、施設職員の職場環境とメンタルヘルス

評価

担当分の発表(50点)、グループディスカッション等の取り組み(30点)、小レポート(20点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内に適宜紹介する。

科目名	児童養護論演習		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は幼児教育専攻専門科目における専門科目群 に位置づく選択科目である。1年生、2年生で修得した保育に関わる専門科目、保育必修科目全般と特に「児童養護論」を踏まえてより保育の専門職として必要な児童養護の現状と課題、社会的養護領域の専門性を実践的に考察できるようになることをめざす。

科目の概要 児童養護演習では社会的養護の内容について、現代の福祉援助課題に対応する児童養護の基本的視座、養護の意義や理念を踏まえて、事例検討やグループディスカッションを行い現代における児童養護についての課題を考察する。さらに、学習の成果についてプレゼンテーションを行い、他者へ伝達するスキル修得もめざす。

学修の目標 昨今の子どもをめぐる援助課題に対する施設利用児（者）と援助者の関係形成過程をはじめ、施設運営や援助体制、専門性、社会的養護における自立支援の視点や権利擁護の視点から具体的な課題分析を行う。本講義では提示されたテキスト内容や配布資料等を事前に確認し、講義内で事例検討やグループディスカッションを行い現代における児童養護についての課題を考察する。さらに、学習の成果についてグループもしくは個人でのプレゼンテーションを行い、他者へ伝達するスキル修得もめざす。 1 児童養護における援助対象の理解、援助課題、専門性の理解 2 施設運営や援助体制、専門的支援内容分析 3 自立支援の視点や権利擁護に視点をあいた事例検討 4 学習成果のプレゼンテーション

内容

- 1 児童養護の展開 1 ニーズの理解
- 2 児童養護の展開 2 支援の展開
- 3 養護実践の専門性 1
- 4 養護実践の専門性 2
- 5 児童養護体制の理解 1
- 6 児童養護体制の理解 2
- 7 養護の課題 1 自立支援の展開
- 8 養護の課題 2 権利擁護の体制
- 9 事例検討 課題発表 1
- 10 事例検討 課題発表 2
- 11 事例検討 課題発表 3
- 12 事例検討 課題発表 4
- 14 今後の社会的養護の展望
- 15 まとめ

評価

授業態度（リアクションペーパーによる確認含む）50点、プレゼンテーションの評価30点、課題提出20点。合格点は60点以上。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 講義内で適宜示す。

科目名	幼児運動論		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目です。幼児期の運動発達とその援助に関する専門的な理解を深め、「健康教育学演習」へとつなげる科目です。

科目の概要

本授業では、幼児期の発達の特徴に応じた運動遊びの援助を行うために必要な知識と経験を深めます。まず、前半の講義を受講することを通して幼児期の運動指導に関する理解を深めます。後半は、子どもの多様な動きを引き出すための教材研究や教材の製作を通して経験を深めます。

学修目標

1. 幼児期の運動発達とその援助方法について理解を深める
2. 幼児期の発達の特徴に基づいた運動遊びの援助について経験を深める

内容

1	ガイダンス（授業内容の詳細および授業の進め方等）
2	現代社会に生きる子どもの生活と保育者の役割（講義）
3	動機づけと運動（講義）
4	運動指導のポイント（講義）
5	遊具の役割（講義）
6	安全への配慮（講義）
7	運動の効果（講義）
8	運動遊びのための教材研究 ・文献研究（グループワーク）
9	運動遊びのための教材研究 ・指導案の作成（個人）
10	運動遊びのための教材研究 ・指導案の検討（グループワーク）
11	運動遊びのための教材研究 ・教材の作成（グループワーク）
12	運動遊びのための教材研究 ・教材の作成（グループワーク）
13	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の試行（グループワーク）
14	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の試行（グループワーク）
15	運動遊びのための教材研究 ・作成した教材の改善（グループワーク）

評価

評価は、運動指導理論の理解度（40点）、教材研究の過程と成果（40点）、まとめのレポート（20点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	幼児運動論演習		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児教育学科の学科専門科目です。卒業研究につながる演習科目として位置づけられており、担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、基本的にはこの科目を履修していることが求められます。

科目の概要

前半は、子どもの運動遊び広場（わくわくプレイパーク@幼教）での活動を通して、運動遊びに関する環境設定や援助についての経験を深めます。後半は、これまでの経験に基づいた問題意識を整理するとともに、幼児の運動に関連した興味のある論文を読み、内容をまとめて発表します。同時に、発表された論文に関する疑問点や課題などを討論します。

学修目標

1. 子どもの運動遊びに関する環境設定や援助についての経験を深める。
2. 伝える（発表する）事を前提とした資料を作成し、論点を絞って発表する。
3. 討論を通して、論文を批判的な視点で捉えることができるようになる。

内容

1	運動遊び活動案の再検討
2	運動遊び活動案の再構成
3	運動遊び教材の改善
4	わくわくプレイパーク@幼教 in 桐華祭の打ち合わせ
5	運動遊び教材の改善
6	運動遊び教材の子どもへの試行（わくわくプレイパーク@幼教 in 桐華祭）
7	運動遊実践（わくわくプレイパーク）の反省とまとめ
8	幼児の運動遊びに関する論文の検討
9	幼児の運動遊びに関する論文のまとめ
10	幼児の運動遊びに関する論文のまとめ
11	学生による発表と討論
12	学生による発表と討論
13	学生による発表と討論
14	学生による発表と討論
15	学生による発表と討論

評価

評価は、教材研究の過程と成果（40）、発表資料の作成と発表（40点）、討論への参加（20点）の観点から総合的に行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 特に使用しない

推薦書 授業中に随時紹介する

科目名	児童文化史		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「児童文化」の各論にあたる講義である。よって、すでに概論である「児童文化」を履修している学生を対象とする。「児童文化」という広い領域から、日本における物語絵を取り上げ、系譜をたどっていく。絵本などに、特に興味・関心を抱く知的好奇心に溢れた学生に向けたものである。

日本は現在、優れた絵本やアニメを創り出している。物語を絵によって表現する「物語絵」は、いつ頃から、どのように誕生してきたのだろうか。日本における物語絵の変遷をたどることにより、絵本やアニメ文化の豊かな背景を探っていく。

内容

- 1 日本のにおける最初の物語絵
- 2 絵巻物の世界
- 3 お伽草紙絵巻
- 4 熊野比丘尼による絵解き
- 5 奈良絵本
- 6 丹緑本
- 7 渋川版「御伽文庫」
- 8 赤本・黒本
- 9 漫画
- 10 おもちゃ絵のなかの物語
- 11 覗きからくり
- 12 写し絵、影絵
- 13 ペープ・サート
- 14 アニメーション
- 15 映画

評価

レポート成績(100%)によって評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

- 『日本のこどもの本歴史展 図録』 日本国際児童図書評議会 1986
- 『はじめて学ぶ 日本の絵本史 ~ 』 ミネルヴァ書房
- 『紙芝居文化史』 萌文書林

『年表 日本漫画史』 臨川書店

『日本のアニメ全史』 テン・ブックス

科目名	児童文化演習		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

すでに「児童文化」の講義課目を履修しており、さらに深く児童文化に関心を寄せる学生を対象とした演習科目である。児童文化研究の教育的意義を確認しながら、児童文化研究の方法論を身につけていくことを目的とする。

内容

文献購読

参加する学生の興味関心に合わせて、児童文化にかかわる著書を選ぶ。分担して読み進めながら、問題点をあきらかにし、討議をしていく。

フィールド観察

児童文化が繰り広げられているさまざまな場に出かけてみるにより、今日的な具体的問題を掘り起こして考察していく。

。

評価

発表、討議、調査研究、レポートなどによる評価。レポートが50%、授業への取り組み方が50%で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考書などは、授業の中で順次、紹介していく。

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の“子どもの音楽文化”について学ぶために「日本音楽教育史」「音楽教育学」「日本童謡史」などを学び、現代の子どもと音楽のかかわりを考えていきたいと思う。

本来の意味での邦楽は「浄瑠璃」「能楽」「三曲」を代表とし、日本の「わらべうた」や「こもりうた」「神楽」などを総称したものである。日本の音楽文化の歴史を追い音楽教育とは何をすべきなのか、現場の子どもたちにはどのように音楽文化を伝えていくべきかをじっくりと考えていきたい。

日本音楽の歴史と日本音楽教育史の関係は、相反するものが見え隠れする。教育の現場での音楽教育を進めながら、日本独自の音楽を受け継いでいく複雑な日本の教育・社会の現状の上になら、自分なりの音楽ポリシーを養ってもらいたい。

確かな「音楽」の概念をしっかり持ち、保育現場で生かせるような授業展開を進める。

内容

第1回～第4回 邦楽の、国楽、雅楽などの歴史とその背景

第5回～第7回 日本の「わらべうた」「こもりうた」

第8回・第9回 明治時代の「唱歌」

第10回・第11回 大正時代、昭和前期における「童謡」

第12回～第14回昭和時代後期・戦後の「こどものうた」「幼稚園教育要領」「保育士指針」に書かれている「表現」との関係。

台15回・ここまでにいった講義内容からレポートの課題を前もって提示する。課題を自分で決めその内容についてレポートを90分以内で記載する。

評価

半期学んだ中から、自分の興味を持ったテーマでまとめて書く。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】町田嘉章他編『わらべうた』岩波書店

増本伎共子『雅楽入門』音楽の友社

丸山忠璋『田村虎蔵の生涯』音楽の友社

科目名	児童音楽文化論演習		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

保育現場で日々の保育に役立つ「紙芝居」「パネルシアター」「おはなし」「指人形」その他いろいろな活動の中から、“音楽を効果的に入れての実演”を行っていく。簡易楽器、エレピアン、CDなどふさわしい楽器を選んで、豊かな文化財を子どもたちに提供する学びを進める。

現代においては、視聴覚の場面展開に子どもたちは生まれたときから慣れている。「紙芝居」「お話」などもそのみで行う場合はもちろんであるが、よりリアリティーな世界を展開することも必要な世界と考える。音を使った展開で子どもに提供する演習を進めていく。

内容

保育現場に於いては、保育の中で子どもたちに「えほん」「紙芝居」「おはなし」「指人形」などを保育者が一人で提供する機会が多い。それらの教材に音楽的效果を入れさらに内容を深く子どもたちに提供できるようクラビノーバや簡易楽器、ピアノなどを使って進めていく。

また、保育者が多数で行う人形劇などなどにも音楽効果を入れていけるような使用を考える。

どちらもあらゆる楽器やあらゆる音楽ジャンルを駆使しより効果的な文化財として授業で工夫をしていきたい。

第1回～第3回 身近な簡易楽器の利用における活用

第4回～第5回 CDなどを利用したオーディオ機器からの活用

第6回～第8回 ピアノを利用しての活用

第9回～第11回 クラビノーバ使用の活用

第12回～第14回 総合的な活用

第15回 これまでの授業を振り返り、子どもに対する現場の活用を話し合う

これらを学生自身で工夫しながら、お話を提供するということを考えていく。

学生自身が音を選択し又他の学生の八日『用などからヒントを得て、順番に発表していく。

クラビノーバには、あらゆる楽器音はもちろんのこと、自然音から効果音などあらゆる音教がシステム化されており、録音もできるので実習などにも活用できる。

評価

授業に対する取り組み、熱意などで評価する。

特にレポートやテストは行わない。

発表内容50%、提出レポート50%とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

イソップ物語。グリム童話。日本むかしばなし。世界のお話。

科目名	児童学特別講義		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

児童学特別講義は、乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性（同一性）もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ（Scribble期・1～2歳ころ）
- ・伝達の喜び（象徴期・3～4歳ころ）

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」平田・小野編著 保育出版社刊

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成26年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成25年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成25年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成25年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加と発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成26年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。研究を進める中で、論理的に考える力、内容を正確に伝える表現力を身につけることを目標とする。

内容

ゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマに関する先行研究を整理する
- ・ 自分の研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進める
- ・ 論文にまとめる

論文の提出締め切りは平成26年1 月上旬の予定。

また、論文提出後、研究発表会にて研究内容について発表する。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の関心・研究テーマに基づいて、卒業研究を進めるため、同一の教科書は使用しない。各自の研究に沿った論文や参考図書を紹介・資料の配布を個別に行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成26年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成26年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは2014年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	藪崎 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

グループ形式のゼミ及び個別の指導を通じて、

- ・各自がこれまでの学びの中で音楽に関するどの分野に興味関心を持っているかを精査し、研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成26年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

科目の概要：自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、1年という長い時間を使って自発的に調査・研究を行う。

学修目標：

- ・課題探求能力を養う
- ・調査・研究方法を身に付ける
- ・論文執筆の技術を高める
- ・他者への説明能力を磨く

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・研究テーマを見だし、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼児教育専攻の教育課程における選択科目である。専攻内の指導の下、ゼミ担当教員を決定する。本科目は3年次の「保育実践論」及び「保育実践論演習」の授業内容と関連している。

科目の概要

卒業研究は大学における学びの総まとめである。作成にあたって、自らの興味と関心によって自主的にテーマを設定し、指導教員の指導・援助を得ながら探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ提出し、発表を行う。授業としては、論文購読や方法論について他の学生とともに議論し共同的に学ぶ内容と、個々の調査方法・進捗状況に応じた個別指導による内容を実施する。

学修目標

1. 幼児教育・保育や研究方法に関する基本的知識を理解した上でさらに発展的に考え、探究する研究的態度を養うこと
2. 調査の実施にあたって必要な社会性を養い、社会や地域への貢献について理解すること
3. 学生同士の議論や質疑応答を経験し、自らの考えを言葉にする力を養うこと
4. 卒業研究の執筆と発表を通して、第三者にわかりやすく伝える技法を理解することを目標とする。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる
- ・ プレゼンテーションの技法を学ぶ
- ・ 研究発表をおこなう

論文の締め切りは例年1月10日頃の予定。日程や様式等の詳細は随時通知する。

論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文の提出と、卒業研究発表会の参加および発表をもって単位認定し、評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成26年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

論文提出と、卒業研究発表会への参加および発表をもって単位認定し評価をする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書を紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山田 陽子、横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Rクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。テーマとじっくりつきあう中で、感受性と思考力、表現力を総合的に培うことをねらいとする。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、事例またはデータを集め、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締切は平成26年1月上旬の予定

論文提出後、研究発表を行う

評価

論文の成果、 作成にあたっての取り組み、 発表などから総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学における幼児教育の学びの総まとめとしての科目である。自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマにもとづき、担当教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。テーマとじっくりつきあう中で、感受性と思考力、表現力を総合的に培うことをねらいとする。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通して、

- ・研究テーマを見出し、焦点化する
- ・研究テーマにふさわしい研究方法を探究し、事例またはデータを集め、考察をすすめる
- ・論文にまとめる

論文の締切は平成26年1月上旬の予定

論文提出後、研究発表を行う

評価

論文の成果、 作成にあたっての取り組み、 発表などから総合的に評価する。 ？

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	教職実践演習（幼）		
担当教員名	上垣内 伸子、平田 智久、坪倉 紀代子、齋藤 麗子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1. 科目の性格：この科目は幼児教育学科の専門科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。教育実習を含め、教職にかかわるすべての科目を履修後、4年次後期に履修することが求められている。
2. 科目の概要：保育者（幼稚園教諭、保育士）を目指す「学びの軌跡の集大成」として、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、幼児教育・保育を担っていくために必要な演習を行う。授業は 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、 社会性や対人間関係能力に関する事項、 幼児理解や学級経営に関する事項、 保育内容等の指導力に関する事項で構成される。
 保育の今日的課題に関する講義、「ロールプレイング」：様々な役割を取り字ること対象を理解する。「事例研究」：ある特定の保育テーマに関する実践事例を検討する。「現地調査」：現職保育者を招いて講和を聞いたり、保育現場等に出向き調査活動や情報の収集を行う。「模擬保育」：実際の保育を行い、自らの課題として残った事柄について学習する。など多様な方法で学習する。
3. 学修目標：保育者を目指す者として保育実践上の自己課題を明確化する。自己課題に対してどのように取り組んでいくかを計画する。必要な演習を通じて課題となっている知識・技能等を獲得する。

内容

1	ガイダンス:この科目についての説明、各自履修履歴の把握、自身の学びについての振り返り
2	講義-子どもの疾病について-(仮)
3	講義(外部講師)-幼保小連携について-
4	講義(外部講師)-多文化保育について-(仮)
5	現地調査のための準備
6	現地調査の実施
7	現地調査のまとめと発表・討論
8	グループ学習1:テーマを選択し5グループに分かれての模擬授業,ロールプレイ,事例研究
9	グループ学習1:テーマを選択し5グループに分かれての模擬授業,ロールプレイ,事例研究
10	グループ学習1:テーマを選択し5グループに分かれての模擬授業,ロールプレイ,事例研究
11	グループ学習2:テーマを選択し5グループに分かれての模擬授業,ロールプレイ,事例研究
12	グループ学習2:テーマを選択し5グループに分かれての模擬授業,ロールプレイ,事例研究
13	グループ学習2:テーマを選択し5グループに分かれての模擬授業,ロールプレイ,事例研究
14	グループ学習1,2についての学習成果の報告と討論
15	総括(まとめと振り返り)

評価

授業への積極的参加(20%)、グループ活動への取り組み姿勢とプレゼンテーション内容(20%)、参加活動による作成資料の提出(30%)、が紀松野レポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に定めない。授業中に、必要に応じて紹介する。他にプリント配布。